

第2章 奥州市の環境の現状

2-1 奥州市の概要

2-2 社会的環境

2-3 廃棄物処理

2-4 自然環境

2-5 生活環境

2-6 地球環境

2-7 第1次計画の指標と進捗状況

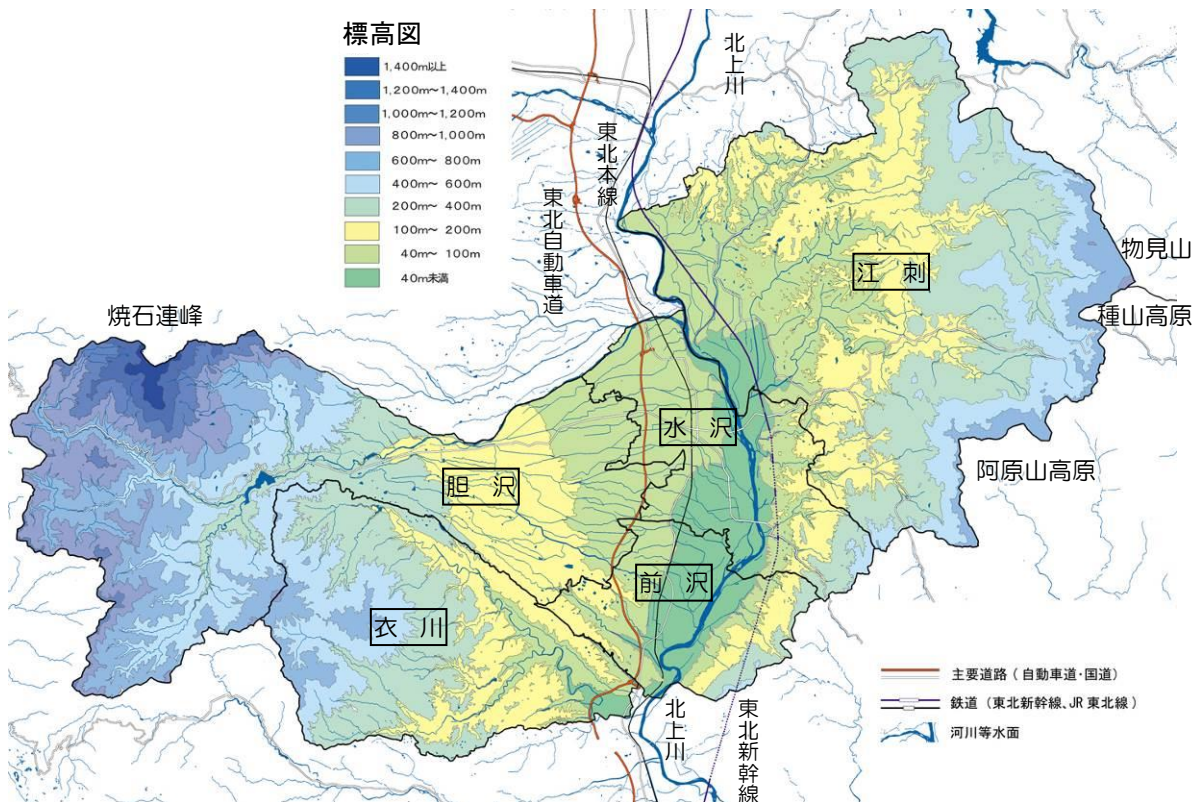
2-1 奥州市の概要

奥州市は、平成 18 年 2 月 20 日に水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の 5 市町村が合併して誕生しました。岩手県の内陸南部に位置し、北は北上市など、南は一関市など、東は遠野市など、西は秋田県に接しています。

市の総面積は、993.3km² と宮古市、一関市に次ぐ県内 3 番目の広さで、東西に約 57km、南北に約 37km の広がりをもっています。西側に焼石岳（標高 1548m）を中心とした焼石連峰からなる奥羽山脈と、東側に物見山（標高 871m）を中心とした種山高原などのなだらかな稜線からなる北上高地に挟まれ、中央を流れる北上川沿いの低地や胆沢扇状地をはじめ、人首川や衣川等の河川沿いの低地と里山※が広がっています。市域の 55%が森林、22%が農地であり、清流と緑豊かな自然に恵まれた地域となっています。

北上川を挟んで東西に長く伸びた地形であることから、気候は地域間の違いが大きく、西部の焼石連峰沿いは、標高も高く日本海側の気候の影響を受け降雨・降雪量が多くなっています。中央部から北上高地にかけては、内陸性気候や盆地性気候に属し、夏季にオホーツク海気団から吹く冷涼・湿潤な北東風「やませ」により、冷害などの影響を受けてきた歴史があります。

交通は、東北地方の幹線交通である東北新幹線や東北本線、東北自動車道や国道 4 号が市域の中心を南北に縦貫しているほか、花巻空港まで約 35km と比較的近く、市外からのアクセス条件は整っています。



【用語の説明】（文中の※印の説明は、99 ページ以降にまとめて記載しています）

※ 里山とは、人里近くの二次林（雑木林）を中心とした周辺の田畑や溜池などを含んだ地域をいいます。昔は薪や炭の生産に利用されてきましたが、石油や石炭などの化石燃料の普及に伴い経済的価値が低下し、所有者による適切な維持管理が困難となっています。近年、身近なみどり、生物の生育・生息空間、自然とのふれあいの場、木質バイオマス資源等としての価値が見直され、その保全と活用が課題となっています。

2-2 社会的環境

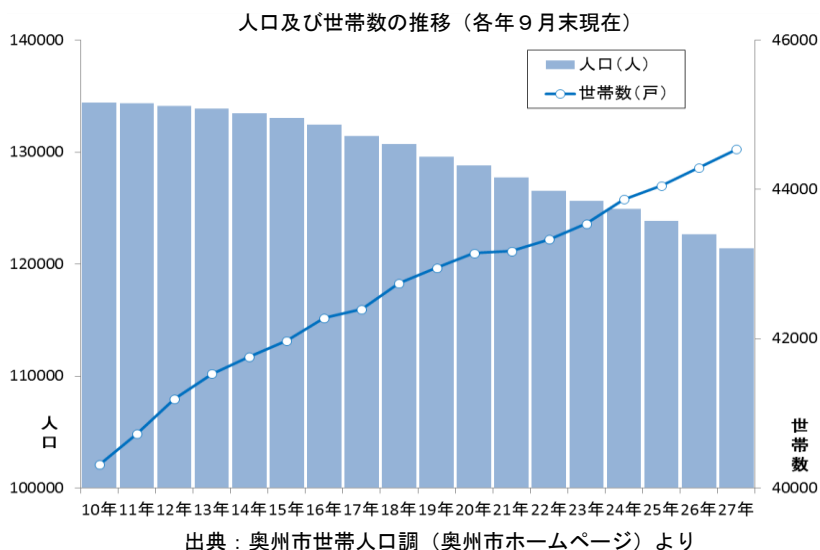
【人口・世帯数】

平成 27 年国勢調査では奥州市の人口は、県内第 3 位です。

住民基本台帳における人口は、平成 10 年の 134,410 人をピークに減少傾向にあります。

年齢構成では、年少人口が 11.5%、生産年齢人口 56.0%、高齢者人口が 32.5%で、県全体の平均と比較して高齢者人口の割合が高く、年少人口、生産年齢人口の割合が低くなっています。

世帯数は、平成 27 年現在で、44,539 世帯と年々増加していますが、1 世帯当たり人員は 2.7 人と平成 19 年比で 0.29 人減少しており、核家族化が進行しています。



【土地利用（地目）】

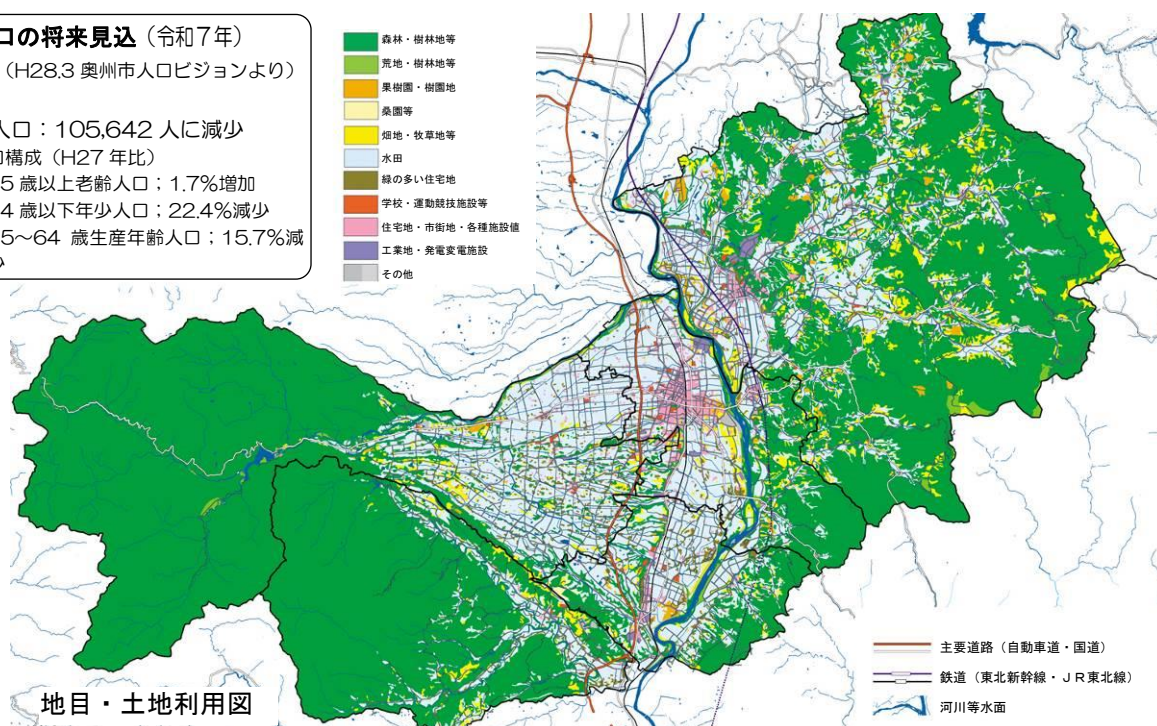
市街地は、北上川沿いの地域にまともっています。2015 年農林業センサスでは林野面積が市域の約 55%、農地割合は約 22%と、農林地が 8 割近くを占めています。

民有林の面積は 34,936ha で、人工林と天然林はほぼ同じ割合となっています。人工林はほとんどが針葉樹、天然林は広葉樹からなっています。

人口の将来見込（令和 7 年） （H28.3 奥州市人口ビジョンより）

- 人口：105,642 人に減少
人口構成（H27 年比）
- ・65 歳以上高齢人口：1.7%増加
- ・14 歳以下年少人口：22.4%減少
- ・15～64 歳生産年齢人口：15.7%減少

- 森林・樹林地等
- 荒地・樹林地等
- 果樹園・樹園地
- 桑園等
- 畑地・牧草地等
- 水田
- 緑の多い住宅地
- 学校・運動競技施設等
- 住宅地・市街地・各種施設
- 工業地・発電発電施設
- その他



2-3 廃棄物処理

一般廃棄物の処理は、金ケ崎町と共同で運営する奥州金ケ崎行政事務組合（胆江地区衛生センター）で行っております。また、産業廃棄物の処理は県管轄事項となっています。

【一般廃棄物の排出】

一般廃棄物の排出形態は、大きく家庭系と事業系の2つに分かれ、それぞれ可燃ごみ、不燃（粗大）ごみ、資源ごみ、有害ごみに分かれています。排出量は、可燃ごみ、不燃（粗大）ごみとも東日本大震災による影響で一時的に多くなりましたが、減少傾向にあります。

【資源化】

リサイクル分別収集の品目は、平成21年度に市内の取り扱いを統一しました。また、子ども会等が行う集団回収に市が報奨金を出して促進を図っています。収集量はスーパーなど回収拠点が増えたこともあり、市の回収量は減少しています。

【ごみ処理・処分】

可燃ごみ、不燃（粗大）ごみは、胆江地区衛生センターに搬入され、可燃ごみは焼却施設において焼却処理後、胆江地区最終処分場に運搬、埋立処分されています。不燃（粗大）ごみは、粗大ごみ処理施設において破砕処理後、鉄分を回収し、資源回収業者へ売却され、可燃残渣は、焼却、不燃残渣は同最終処分場で埋立処分されています。

【不法投棄等】

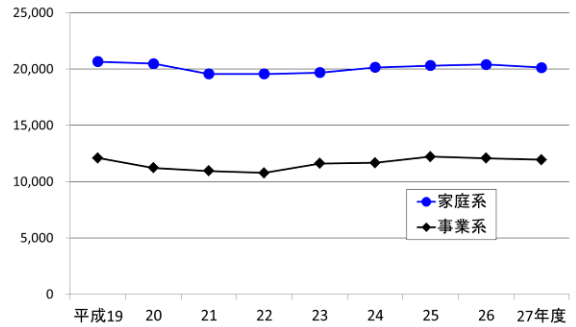
廃棄物の不法投棄は、全国的にも問題となっています。市内の不法投棄については、年々減少傾向にあります。

【し尿・汚泥の収集】

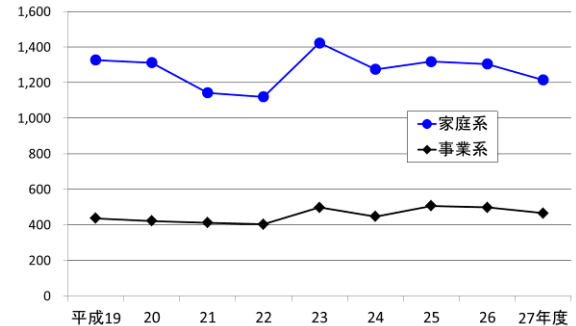
し尿、浄化槽汚泥及び農業集落排水処理施設の汚泥は、胆江地区衛生センターのし尿処理施設において浄化され、北上川に放流されています。また、処理後の汚泥は焼却施設で焼却されるほか、一部は堆肥として頒布しています。し尿の処理量は、下水道や農業集落排水の利用により減少していますが、汚泥処理量は増加しています。

《詳細は、「奥州市一般廃棄物処理計画」を参照》

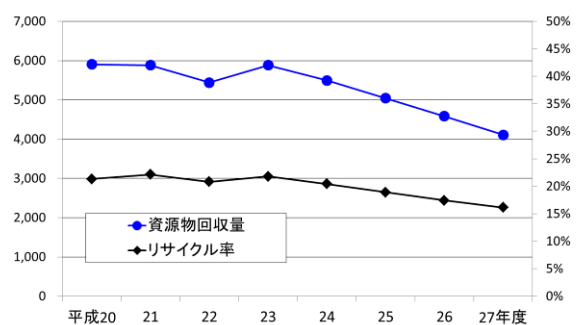
可燃ごみ搬入量(t)



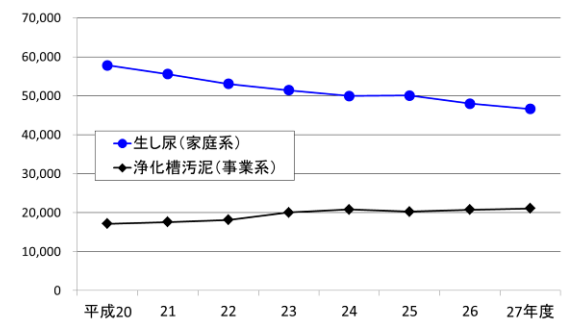
不燃ごみ搬入量(t)



リサイクル状況（資源物回収量・リサイクル率）



し尿・汚泥等の収集状況(kl)



※市のデータによる

2-4 自然環境

奥州市の自然環境は、東部の北上高地、西部の奥羽山脈と中央部に広がる胆沢扇状地や北上川沿いの低地からなる平野部に大別されます。

【東部：北上高地地域】

積雪量が少なく、冬期は低温で乾燥するのが特徴で、内陸性気候・盆地性気候からなります。地質的には、県内最古の古生代カンブリア紀（5億年前）の母体変成岩を基盤に、デボン紀・ペルム紀の粘板岩や石灰岩などからなり、これら古生層を貫く中生代白亜紀花崗岩が広い面積を占めています。

北上高地は、標高1200mを境に山地帯と亜高山帯に分けられますが、市域は、物見山（種山高原）871mが最高峰で山地帯に含まれます。気候的極相としてはブナ林が成立する地帯に含まれますが、早くからほとんどが伐採され、その後成立したコナラ・クリ林、アカマツ二次林、ススキ草原、シバ草原と、スギやアカマツの植林地となっています。

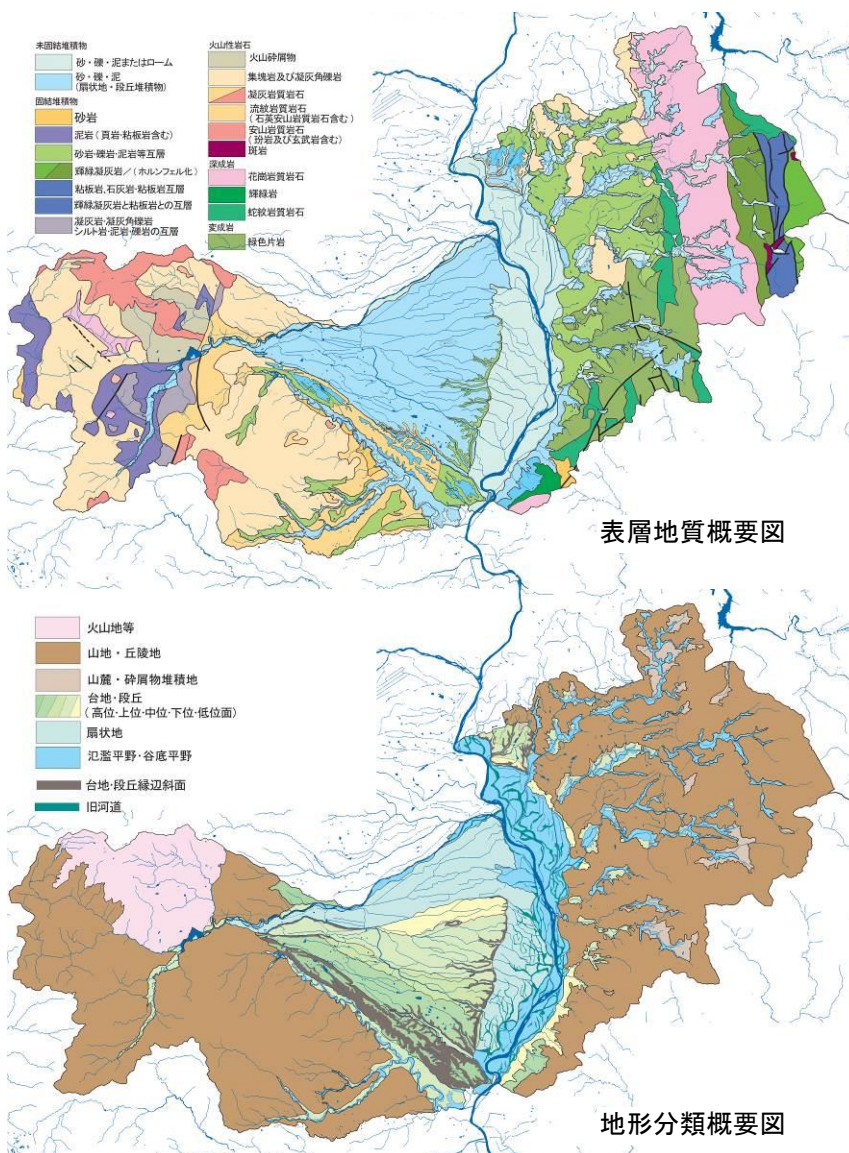
標高500m以下には、里山※の代表的なコナラ・クリ林が、尾根筋にはアカマツ林が成立し、林床に多様な野草が見られます。古くから薪炭林として利用され、萌芽更新によって維持されてきた森林ですが、近年は放置された森林も多くなっています。

【西部：奥羽山脈地域】

日本海型気候に属し、気温は一般に寒冷で、年降水量は1400mm以上、積雪200cm以上に達する豪雪地帯となっています。焼石岳火山地や栗駒山火山地があり、全体的に火山噴出物に覆われているほか、火山性岩石の安山岩質岩石や流紋岩質岩石、集塊岩及び凝灰角礫岩が広がっています。火山周辺を除くと、河谷の浸食により起伏の激しい山地となっています。

奥羽山脈は、標高1100mを境に、亜高山帯と山地帯に分かれます。亜高山帯は一般的には常緑針葉樹林帯ですが、焼石岳や栗駒山には見られません。これらの山ではブナは高度を増すに従って樹高が次第に低くなり、樹高2～3mのブナ低木林を形成し、常緑低木林へと発達しています。

積雪が多く、雪原が所々に見られるほか、高層湿原をはじめ、火山活動に伴う高山性荒原植生などが生



育し、特定植物群落も数多く分布し、特異で優れた自然環境を形成しています。

山地帯は、冷温帯を代表する落葉広葉樹林（夏緑広葉樹林）帯で原生林（極相林）としてブナ林が成立し、ブナ・チシマザサ群落からなっています。胆沢川支流の小出川流域にはブナ林が形成されているほか、焼石岳南麓のブナ林にはユキツバキが優勢なところもあり、県内でも良好な自然環境が残された山地帯となっています。

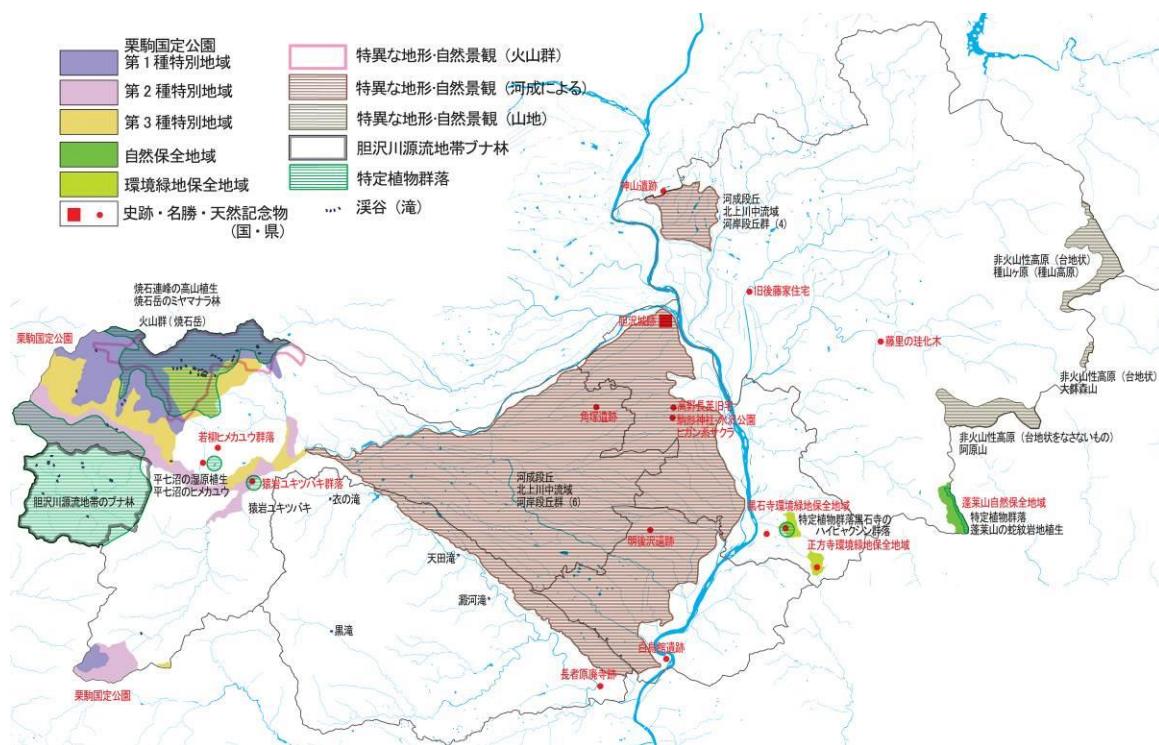
【中央部：胆沢平野（扇状地）、北上川低地地域】

北上川低地は、北上川の氾濫により形成された低地で、北上川の右岸・左岸には、かつての流路である旧河道や砂等が堆積した自然堤防の地形が発達しています。水の便が良く、早くから稲作が行われ、微高地で水はけが良い自然堤防地形は、集落や畑等として利用されてきました。

古くから「水陸万頃」の地として知られる胆沢平野は、奥羽山脈に源を発する胆沢川が運んだ大量の砂礫によって、長い年月をかけて形成された扇状地です。胆沢川は、土砂を堆積し扇状地をつくりながら浸食し、南北に上位面から下位面の6段の河岸段丘を形成してきました。扇端部に数多くの湧水が見られます。先人たちは透水性が高い砂礫堆積物と数段の河岸段丘からなる大地に、ため池や水路を整備し、森や荒地を拓き、今日の散居景観や広大な田園地帯を形成してきました。

また、胆沢扇状地には、北上の岩崎新田から胆沢の出店、南台を通り、駒籠付近まで続く、長さ約24 kmの出店（でたな）活断層があります。もし、動くマグニチュード7.3、震度6弱の直下型地震が起き、建物の大破、急傾斜地の崩壊、沖積低地の液状化等が予測されています（「岩手県地震被害想定調査に関する報告書（1998年）」）。家屋の耐震診断による補強、家具の固定、避難場所の確認等「減災」のための備えが大切です。

西部（奥羽山脈等）		東部（北上高地等）
焼石岳 1547.3m、横岳 1473.0m、経塚山 1372.2m、秋田との1,100mを超える県境の山、高檜能山 926.9m、国見山 787.7m	主な山岳	物見山(種山高原)869.9m、大森山 819.4m、蓬来山 787.2m、阿原山 781.6m、大鉢森山 633.4m、束稲山 594.9m
胆沢川(延長 30km)、衣川(27km)、南股川(11km)	主な川	人首川(32km)、伊手川(21km)、広瀬川(20km)
栗駒国定公園特別地域、焼石岳連峰の火山景観、数多くの断崖・岸壁や池沼、滝・溪谷等 胆沢扇状地(北上川中流域河成段丘群)	自然景観資源	種山ヶ原(イーハトーブの風景地)、大森山、阿原山など非火山性台地等の高原、大師山森林公園 稲瀬台地(北上川中流域河成段丘群)
胆沢地域/胆沢川源流地帯などの多くのブナ林、高山植物、胆沢川流域ユキツバキ群落、若柳ヒメカユウ(ヒメカイウ)群落等多くの湿原植生 衣川地域/宝塔谷地湿原植生、月山神社ヒノキアスナロ林	特性植物群落	江刺地域/蓬来山の蛇紋岩植生 水沢地域/黒石寺のハイバクシン群落



自然公園及び貴重な自然環境図

2-5 生活環境

奥州市は、全国星空観察（平成 4、5 年）で「星空日本一」となった衣川地域をはじめ、市内に源を発し北上川に注ぐ胆沢川などの清流が流れ、きれいな大気や水環境に恵まれています。

日常の移動手段として、広く使われる自動車の登録台数は、貨物用や乗合用自動車が増加傾向ですが、軽自動車が増加するなど、全体としては増加傾向にあります。自動車による騒音や排気ガスなどのほか、二酸化炭素の排出による悪影響が懸念されます。

自動車登録台数(台)													
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総 数	99,603	100,464	101,456	102,084	102,193	102,189	102,247	101,839	101,620	103,051	104,045	104,043	104,286
貨物用	10,156	9,887	9,617	9,529	9,155	8,911	8,522	8,217	7,969	7,972	8,030	8,045	7,988
乗合用	362	360	357	341	333	320	318	317	296	299	302	298	294
乗 用	45,230	44,919	44,839	44,513	43,755	42,691	41,595	41,007	40,606	40,779	40,707	40,366	39,950
特殊(大型)車	2,170	2,174	2,149	2,131	2,132	2,138	2,095	2,055	1,996	2,029	1,990	1,978	1,970
小型二輪車	1,169	1,219	1,225	1,258	1,265	1,338	1,383	1,396	1,393	1,452	1,473	1,532	1,518
軽自動車	40,516	41,905	43,269	44,312	45,553	46,791	48,334	48,847	49,360	50,520	51,543	51,824	52,566

(資料:東北運輸局岩手運輸支局、各年度3月末日現在)

【大気環境】

県が水沢大手町に一般大気測定局を設置し、常時監視を行っています。二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質※とも環境基準※を下回っています。

【水環境】

市域は北上川水系に属し、市域のほぼ中央を南流する北上川に、東西から多くの河川が流入しています。主要な水域では県による水質調査が実施されていますが、生物化学的酸素要求量（BOD）※は、環境基準※を下回っています。また、東北地方整備局が管理する一級河川については、水生生物を指標とした簡易水質調査が行われています。

生物化学的酸素要求量(BOD)の環境基準達成状況												
	当該 類型	年度毎のBOD環境基準達成状況										
		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
北上川(4)	AⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
人首川	AⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
伊手川	AⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
胆沢川上流	AAⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
胆沢川下流	AⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
広瀬川	AⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
太田代川	AⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
白鳥川	AⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
衣川	AⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
※北上川(4)の5箇所 の測定地点 中市内は、金ヶ崎橋、藤橋の2箇所 （資料：平成26年度 公共水域水質測定結果：岩手県）												

※北上川(4)の5箇所の測定地点中市内は、金ヶ崎橋、藤橋の2箇所
(資料:平成26年度 公共水域水質測定結果:岩手県)

市域の生活排水処理は、下水道、農業集落排水処理施設、コミュニティプラント※、合併処理浄化槽※により進められています。平成 27 年度末の汚水処理人口普及率（下水道等を利用できる状況にある人の率）は 78.5%となっています。

【騒音・振動・悪臭】

東北自動車道及び東北新幹線の騒音測定では、環境基準※を超える地点が散在しています。

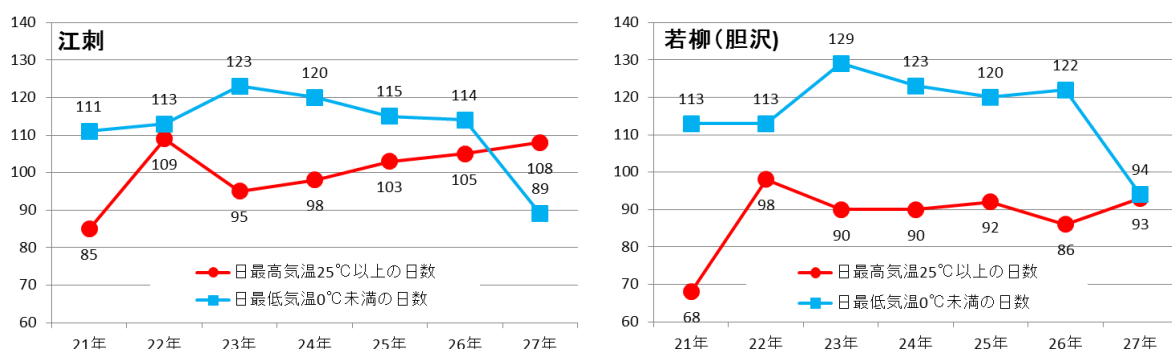
【土壌環境・化学物質】

公共用水域※、地下水及び土壌の平成 26 年度調査では、各地点のダイオキシン類※は環境基準値を下回っています。地下水は県が毎年度市内 5 本程度の井戸を調査していますが、環境基準値を上回る井戸はありませんでした。また、県では環境負荷が大きい化学物質について、県内数地点で水質や大気中濃度を測定したほか、内分泌かく乱化学物質の調査をしています。平成 26 年度は環境基準※又は指針値を上回る地点はありませんでした。

2-6 地球環境

地球温暖化をはじめとする環境問題は、世代を超えた人類全体の問題となっています。こうした地球規模の環境問題は、私たちの豊かさと利便性を支えている大量消費・大量廃棄型の社会システムや、一人ひとりの生活様式を見直していかなければ対応できません。

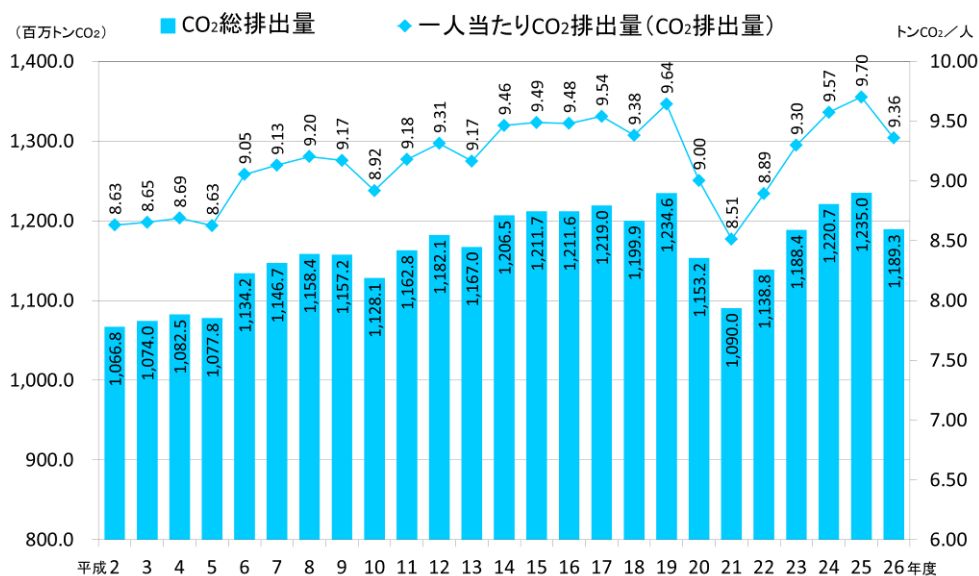
気象庁の観測地点となっている「江刺」「若柳」のデータを見ると最高気温が 25℃を超えた日数は増加傾向にあります。また、最低気温が氷点下となった日数は逆に減少傾向にあり、緩やかに温暖化が進んでいるものと思われます。



出典:気象庁ホームページ「過去の地点気象データ」江刺及び若柳を抽出

【温室効果ガス排出量】

地球温暖化の原因でもある温室効果ガス排出量のうち二酸化炭素は、総排出量の 90%以上を占めます。平成 26 年度の国内の総排出量は、11 億 8930 万トンで、一人当たりの排出量は、9.36 トンとなり、平成 25 年度よりも減少していますが、平成 2 年度と比較すると一人あたりの排出量が 8.5%の増加となっています。



出典:国立環境研究所 地球環境研究センター 温室効果ガスインベントリオフィス ホームページ「温室効果ガス排出量データ(1990～2014 年度) 確報値」

2-7 第1次計画の指標と進捗状況

第1次環境基本計画では、「未来を見つめる百年循環都市 地球と共存する奥州」を目指すべき環境像とし、目標の実現に向けた市民・市民団体・事業者・市の協働による取り組みを協働プロジェクトとして位置づけ推進してきました。

平成27年8月に実施した市民アンケート※によると、奥州市の魅力について、「自然環境」と回答した市民が最も多く71.6%となっています。また、豊かな自然環境との共生について「自然環境の保全管理」、「ごみ減量化」に取り組むべきと回答した市民がそれぞれ42.8%、42.4%となっており、奥州市の魅力である自然環境を引き続き保全していくことが大切です。

第1次環境基本計画の体系図

目指すべき環境像

未来を見つめる百年循環都市 地球と共存する奥州

分野別環境像	環境目標
Ⅰ ごみを出さないために知恵を出す(人々のまち)	Ⅰ-1 ごみの減量化
	Ⅰ-2 廃棄物の適正処理
Ⅱ 未来につなごう水と緑のまち	Ⅱ-1 森林の保全(豊かな森づくり)
	Ⅱ-2 清流の保全(豊かな水づくり)
	Ⅱ-3 貴重な自然環境の保全と活用
	Ⅱ-4 身近な自然環境の保全と活用
Ⅲ 豊かな「水・空気・土」のまち	Ⅲ-1 安心・安全な暮らしの確保
	Ⅲ-2 良好な生活環境の保全
Ⅳ 地球にやさしいまち	Ⅳ-1 地球温暖化対策の推進
	Ⅳ-2 地球環境保全対策の推進
Ⅴ 人が大きく育つまち	Ⅴ-1 環境教育・環境学習の推進
	Ⅴ-2 市民との連携

第1次環境基本計画では、環境への取り組みや施策の進捗状況の目安となる計画指標を12項目定めていました。進捗状況については、分野別環境像毎に示します。なお、進捗状況の目安とし矢印による表記をしています。

進捗状況：	目標値を達成(101%以上)
	目標値をほぼ達成及び現状維持(90~100%)
	目標値を達成できなかった(～90%)

【平成27年8月に実施した市民アンケート】

※ 調査期間：平成27年8月7日～8月24日

調査方法：郵送による配布、回収

調査対象：住民基本台帳から無作為抽出による20歳以上の市民3,000名(回答数995名・回収率33.2%)

第1次環境基本計画 分野別環境像 I ごみを出さないために知恵を出す(人々の)まち

家庭ごみの排出量は、年々増加傾向にあります。可燃物のうち、重量がかさむ生ごみや草木などについて、出来るだけ乾燥してから排出するなど更に減量化に向けた取り組みが必要です。

ごみリサイクル率（総資源化率）は、販売事業者によるリサイクルの活動の取り組みもあり、減少傾向がみられるが、市内におけるリサイクルは進んでいるものと思われます。

不法投棄箇所数は、年々減少し成果が表れてきています。

(環境目標)	(環境目標の内容)
I-1 ごみの減量化（3Rの推進）	●ごみの発生抑制、再使用の促進及び再資源化の推進や省資源への取り組みを積極的に推進し、ごみの減量化を目指します。
I-2 廃棄物の適正処理	●廃棄物が適正に処理され、不法投棄のない清潔なまちづくりを目指します。

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
① 1人1日当たりのごみの排出量	平成19年度：466g/人/日 (リサイクル量及び事業系を除く。)	初期（平成21～23年度）441g/人/日以下 前期（平成24～26年度）435g/人/日以下 中期（平成27～28年度）430g/人/日以下

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	441g/人/日以下	447g/人/日以下	98.7%	→
平成22年度	441g/人/日以下	451g/人/日以下	97.8%	→
平成23年度	441g/人/日以下	463g/人/日以下	95.2%	→
平成24年度	435g/人/日以下	473g/人/日以下	92.0%	→
平成25年度	435g/人/日以下	482g/人/日以下	90.2%	→
平成26年度	435g/人/日以下	489g/人/日以下	89.0%	↘
平成27年度	430g/人/日以下	483g/人/日以下	89.0%	↘

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
② ごみリサイクル率（総資源化率）	平成19年度：22.3% (事業系を除く。)	初期（平成21～23年度）25.0%以上 前期（平成24～26年度）25.5%以上 中期（平成27～28年度）26.0%以上

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	25.0%以上	22.12%	88.5%	↘
平成22年度	25.0%以上	20.83%	83.3%	↘
平成23年度	25.0%以上	21.80%	87.2%	↘
平成24年度	25.5%以上	20.41%	80.0%	↘
平成25年度	25.5%以上	18.91%	74.2%	↘
平成26年度	25.5%以上	17.42%	68.3%	↘
平成27年度	26.0%以上	16.20%	62.3%	↘

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
③ 不法投棄箇所数	平成 19 年度：47 箇所	初期（平成 21～23 年度）19 年度比 1 割減少 前期（平成 24～26 年度）19 年度比 2 割減少 中期（平成 27～28 年度）19 年度比 3 割減少

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	42 箇所	48 箇所	87.5%	↘
平成22年度	42 箇所	47 箇所	89.3%	↘
平成23年度	42 箇所	46 箇所	91.3%	→
平成24年度	38 箇所	46 箇所	82.6%	↘
平成25年度	38 箇所	41 箇所	92.6%	→
平成26年度	38 箇所	38 箇所	100.0%	→
平成27年度	32 箇所	33 箇所	97.0%	→

第 1 次環境基本計画 分野別環境像 II 未来につなごう水と緑のまち

森林を維持していくためには、適切な間伐を行うなどの保全活動が重要になるため、間伐実施率を一つの指標としてきましたが、木材価格の低下、間伐に対する補助金の削減など複数の要因により間伐は進みませんでした。

奥州万年の森植樹は毎年開催し、平成 28 年 9 月には、約 8 アールにコナラ、ヤマザクラ、クヌギなど 14 種類、計 2,500 本の植樹を行いました。

水生生物調査参加団体数は、微増減を繰り返しながらも増えてきており、自然とのふれあいの場の確保がされています。

(環境目標)

(環境目標の内容)

II-1 森林の保全

- 森林の保全や整備を進め、森林の多様な機能が発揮される豊かな森づくりを目指します。

II-2 清流の保全

- 市内に源を発する清流や水源かん養機能等の健全な水循環の保全と確保を目指します。

II-3 貴重な自然環境の保全と活用

- 野生動植物の生息・生育環境の保全等により生物多様性を確保し、優れた自然環境を保全し、将来世代に継承します。

II-4 身近な自然環境の保全と活用

- 里地里山の保全や身近な自然とのふれあいを確保し、自然との共生の歴史や文化・知恵を将来世代に継承します。

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
① 特定間伐等の実施の促進に関する基本方針に基づく間伐目標面積の実施率	平成 19 年度：42.6% (計画面積：554 ヘクタール) (実施面積：236 ヘクタール)	目標面積に対する間伐実施率 50%以上

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	50%以上	54.0%	108.0%	↗
平成22年度	50%以上	27.4%	54.8%	↘
平成23年度	50%以上	75.1%	150.2%	↗

(次ページに続く)

平成24年度	50%以上	23.7%	47.4%	↓
平成25年度	50%以上	28.2%	56.4%	↓
平成26年度	50%以上	9.7%	19.4%	↓
平成27年度	50%以上	2.0%	1.0%	↓

○本県の区域内における特定間伐等の実施の促進の目標

平成25年度から平成32年度までの8力年間に県内民有林において促進すべき間伐の目標面積は、115,000ha（年平均14,375ha）とする。

これを達成するため、県農林水産部森林整備課より各現地機関に対して毎年現地機関別間伐目標面積が通知される。

○間伐が進まない理由・・・適地がない、人手不足、森林の所有者不明または連絡がつかない、木材価格の低下など複数の要因による。（農地林務課より聞き取り）

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
② 奥州万年の森植樹の実施	平成20年9月23日 第1回植樹祭開催	年1回以上実施

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	1回以上	1回	100.0%	→
平成22年度	1回以上	1回	100.0%	→
平成23年度	1回以上	1回	100.0%	→
平成24年度	1回以上	1回	100.0%	→
平成25年度	1回以上	1回	100.0%	→
平成26年度	1回以上	1回	100.0%	→
平成27年度	1回以上	1回	100.0%	→

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
③ 水生生物調査参加団体数（環境省・国土交通省が主体の水生生物調査への市内団体等の登録数）	平成19年度：13団体 （環境省関係：11団体） （国土交通省関係：2団体）	初期（平成21～23年度）15団体 前期（平成24～26年度）20団体 中期（平成27～28年度）25団体

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	15団体	13団体	86.6%	↓
平成22年度	15団体	14団体	93.3%	→
平成23年度	15団体	16団体	106.6%	↑
平成24年度	20団体	16団体	80.0%	↓
平成25年度	20団体	14団体	70.0%	↓
平成26年度	20団体	22団体	110.0%	↑
平成27年度	25団体	17団体	68.0%	↓

第1次計画 分野別環境像Ⅲ 豊かな「水・空気・土」のまち

公共水域の環境基準※は、15箇所が基準値を超過しており、全ての調査地点で環境基準※を達成することが望まれます。

汚水処理人口普及率は、平成27年度末で78.5%と目標を達成することができ、生活排水等の対策は確実に進んでいます。一方、未だに汚水処理施設を利用できない環境の人もいることから、更なる向上が求められます。

(環境目標)

Ⅲ-1 安心・安全な暮らしの確保

●土壌汚染の防止や有害化学物質対策、食の安全の確保等により安心・安全な暮らしの実現を目指します。

Ⅲ-2 良好な生活環境の保全

●水環境の保全や騒音・振動、悪臭、生活排水等の対策を進め、快適な生活環境の確保を目指します。

(環境目標の内容)

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
① 公共水域の水質の環境基準達成状況	平成19年度(A類型) 80.4%	調査河川の全ての調査地点がA類型達成(大腸菌群数を除く。)を目指す。

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	100.0%	78.4%	78.4%	→
平成22年度	100.0%	76.5%	76.5%	→
平成23年度	100.0%	64.7%	64.7%	→
平成24年度	100.0%	88.2%	88.2%	→
平成25年度	100.0%	72.5%	72.5%	→
平成26年度	100.0%	52.9%	52.9%	→
平成27年度	100.0%	70.6%	70.6%	→

平成26年度調査実績において、市内51箇所の調査地点(河川46、ため池5)中、15箇所が基準値を超過。

水素イオン濃度PH、生物化学的酸素要求量BOD、浮遊物質質量SS、溶存酸素量DO BODの超過が多い(有機物が多く含まれている。)

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
② 汚水処理人口普及率	平成19年度: 63.1%	平成28年度目標値: 77.2%

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	77.2%	67.7%	87.7%	→
平成22年度	77.2%	71.3%	92.4%	→
平成23年度	77.2%	73.0%	94.6%	→
平成24年度	77.2%	74.3%	96.2%	→
平成25年度	77.2%	75.1%	97.3%	→
平成26年度	77.2%	76.3%	98.8%	→
平成27年度	77.2%	78.5%	101.7%	→

第1次環境基本計画 分野別環境像Ⅳ 地球にやさしいまち

CO₂ 排出削減量は、「奥州市住宅用太陽光発電システム導入促進費補助金」を受けて設置した住宅用太陽光発電システムの発電規模を基に算出していましたが、平成 26 年度で同補助金の交付が終了しており、平成 27 年度以降の太陽光パネルの設置状況等は把握できていない状況にあります。

計画時点の状況からは大きく伸びており、同補助金が無くなった後も、太陽光発電システムの導入が進んでいると予測されることから、温室効果ガス※の発生は一定程度抑制できたものと思われます。

(環境目標)	(環境目標の内容)
Ⅳ-1 地球温暖化対策の推進	●省資源・省エネルギーの推進や新エネルギーの利用等、温室効果ガス※の発生を抑制し、地球温暖化防止に貢献します。
Ⅳ-2 地球環境保全対策の推進	●地球温暖化以外の環境問題について、各主体や地域ができることから進め、地球環境保全に貢献します。

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
再生可能エネルギー※利用によるCO ₂ 排出削減量 ①	平成 21 年度：315 kg	初期（平成 21～23 年度）1,205 kg 前期（平成 24～26 年度）2,600 kg 中期（平成 27～28 年度）3,649 kg

※平成 25 年度に行った中間見直しにより項目を変更・追加した指標

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	1,205 kg	315 kg	26.1%	↓
平成22年度	1,205 kg	784 kg	65.0%	↓
平成23年度	1,205 kg	1,234 kg	102.4%	↑
平成24年度	2,600 kg	1,713 kg	65.8%	↓
平成25年度	2,600 kg	2,263 kg	87.0%	↓
平成26年度	2,600 kg	2,482 kg	95.5%	→
平成27年度	3,649 kg	2,482 kg	68.0%	↓

市で行っているBDF、木質バイオマスエネルギー利用によるCO₂削減量及び、住宅用太陽光発電システム導入補助金により設置した太陽発電による削減量。

平成 26 年度で住宅用太陽光発電システム導入補助金が廃止されたため、平成 27 年度は同数とした。

太陽光発電は、1 kwあたり 0.468 kg のCO₂削減として換算

【参考】一般電気事業者の東北電力（株）排出係数

年度	実排出係数	備考
平成21年度	0.468 kg-CO ₂ /kWh	特定排出者の事業活動に伴う温暖化効果ガスの排出量の算定に関する省令（平成 18 年 3 月 29 日経済産業省令・環境省令第3号）第2条第4項及び温室効果ガス算定排出量等の報告等に関する命令（平成 18 年内閣府・総務省・法務省・外務省・財務省・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省令第2号）第20条の2の規定に基づく公表値
平成22年度	0.468 kg-CO ₂ /kWh	
平成23年度	0.429 kg-CO ₂ /kWh	
平成24年度	0.547 kg-CO ₂ /kWh	
平成25年度	0.600 kg-CO ₂ /kWh	
平成26年度	0.591 kg-CO ₂ /kWh	
平成27年度	0.571 kg-CO ₂ /kWh	

※出典：電気事業者別排出係数（特定排出者の温室効果ガス排出量算定用）より抜粋

第1次環境基本計画 分野別環境像 V 人が大きく育つまち

計画指標の「市民の環境学習イベントへの参加」は、市民環境アンケート調査を実施することが出来なかったため、進捗状況の判断に使用することが出来ませんでした。

こどもエコクラブ結成数は、活動をしていてもこどもエコクラブ※への加入まで至らないことが多く目標を達成することが出来ませんでした。また、環境学習事業実施小中学校数は、微増減を繰り返しながらも着実に増えてきており、環境教育の場の提供がなされています。

(環境目標)

V-1 環境教育・環境学習の推進

(環境目標の内容)

●豊かな環境を活かした環境教育や環境学習の推進、環境情報の提供等により環境についての理解を深めます。

V-2 市民との連携

●市民の知識・経験を活かし、市民・市民団体・事業者との連携による環境づくりがなされる体制づくりを進めます。

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
① 市民アンケートによる環境学習イベントへの参加割合	H19 年度市民環境アンケート調査での「積極的に参加している」割合：3%	初期（平成21～23年度）3%以上 前期（平成24～26年度）5%以上 中期（平成27～28年度）10%以上

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	3%以上	アンケート調査未実施	- %	—
平成22年度	3%以上	アンケート調査未実施	- %	—
平成23年度	3%以上	アンケート調査未実施	- %	—
平成24年度	5%以上	アンケート調査未実施	- %	—
平成25年度	5%以上	アンケート調査未実施	- %	—
平成26年度	5%以上	アンケート調査未実施	- %	—
平成27年度	10%以上	アンケート調査未実施	- %	—

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
② こどもエコクラブ※結成数	H19 年度：4 クラブ 環境省が行うこどもエコクラブ※への登録数	初期（平成21～23年度）10 クラブ 前期（平成24～26年度）13 クラブ 中期（平成27～28年度）15 クラブ

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	10 クラブ	4 クラブ	40.0%	→
平成22年度	10 クラブ	6 クラブ	60.0%	→
平成23年度	10 クラブ	8 クラブ	80.0%	→
平成24年度	13 クラブ	8 クラブ	61.5%	→
平成25年度	13 クラブ	6 クラブ	46.1%	→
平成26年度	13 クラブ	4 クラブ	30.7%	→
平成27年度	15 クラブ	4 クラブ	26.7%	→

計画指標	前計画時点の状況	前計画目標
③ 環境学習事業実施小中学校数	H20 年度：13 校	初期（平成21～23 年度）11 校 前期（平成24～26 年度）16 校 中期（平成27～28 年度）22 校

※平成 25 年度に行った中間見直しにより項目を変更・追加した指標

◆計画指標に対する達成状況

	目標値	実績値	達成率	進捗状況
平成21年度	—	—	—	—
平成22年度	11 校	11 校	100.0%	→
平成23年度	11 校	8 校	72.7%	↘
平成24年度	16 校	14 校	87.5%	↘
平成25年度	16 校	16 校	100.0%	→
平成26年度	16 校	17 校	106.2%	↗
平成27 年度	22 校	20 校	90.9%	→





前沢地域「白鳥館遺跡」



江刺地域「館山史跡公園アジサイ」